河北仙販「私の新聞オーディション」入選

ふくらく通信

2011年第5号12月21日発行
総号数55　発行人 菅野香織

町は津波に消えても

津波に消えた町の思い出が、いくつかある。町はまた、人々によって作られる。その道を進む中で、思い出も大事にしたい。かつて、そこにあって、輝いていたことの証だから。

「みのと・閑上」

2008年 7/10記録 7/14・15作成文より

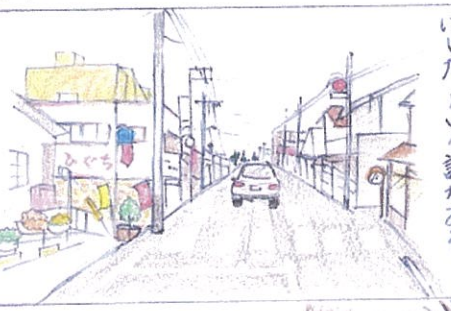
昔、「この門」は「水の門」と書き、「みのと」を「な」とも言い、水の門は出入りする土地を示しているという。つまり、水の出入り口のことで、「みなと」と言ったという話がある。

察する通り、「港」のことだ。

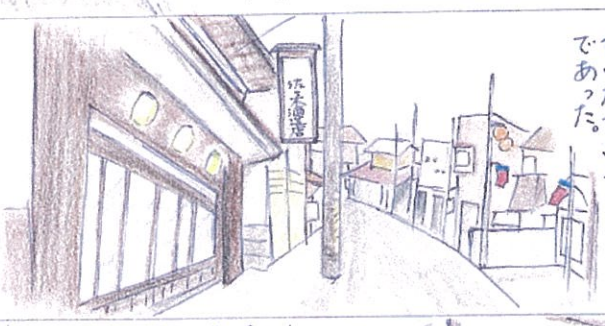
仙台市の南隣りに名取市があって、そこに、「閑上」という港がある。「ゆりあげ」と読むのだが、字が珍しく、名前の由来が面白い港だ。

「ゆりあげ」には、観音像が漁師によって揺り上げられたから「ゆりあげ」と呼ぶ、という言い伝えがあるそうだ。

後に、「閑上」の字にしたのは、四代藩主の伊達綱村公が、仙台城から南東に広がる丘陵で開山した「大年寺」にて、門の中に水(港)が見えて閑上にした、という説がある。



さて、春雨の降る10日、閑上の町へと出かけた。閑上大橋の南側では、東の閑上漁港に向かう道が、いくつかに分かれている。その中に、貞山堀を渡る宮下橋へと、まっすぐ続く通りがある。実は、その通りに、老舗や良い店が点在しているのであった。



通りかかった「佐々木酒造店」さんは、創業明治四年の、老舗の造り酒屋だ。昔ながらの寒仕込みで、「宝船浪の音」を造っているらしい。

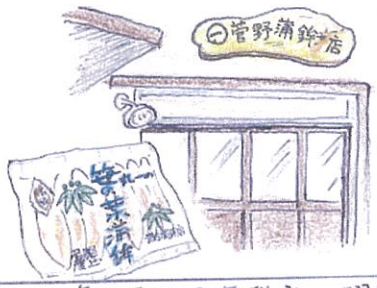
その近にも、また明治創業の老舗があった。創業明治39年という、「相馬屋菓子店」さんだ。

入り口の近くに、懐かしい量り売りの飴があった。手作りの黒飴は、コクのある黒蜜の味わい。飴やがんずきなど、昔ながらの菓子の他に、新たな菓子もあった。それが、「ビーテラ」である。

名取市に、サッポロビール工場があり、そのビール酵母を使ったカステラが作られているのだ。ふわっとビールの香りがして、しっとりとしたカステラである。まろやかで、甘さの中に、爽やかな苦味と、わずかな酸味がある。

ところで、宮城の土産といえば、やっぱり笹かまぼこだ。実は、看板の目立たない、地元の方が通う蒲鉾屋さんがある。「菅野蒲鉾店」さんだ。お店というより工場に見える。入り口付近には、焼きカレイも並んでいた。

菅野蒲鉾店さんは、地元の人々に、丸一の屋号で親しまれているお店で、三代前からの伝統を引き継いだ味だという。夫婦二人で厳選した食材で、まごころ込めて作り、焼き上げているそうだ。魚の旨味がたっぷりで、香りよく、程よい弾力の笹かまぼこだった。



閑上は、「閑上朝市」の催しや赤貝が有名だ。だが、普段立ち寄っても逸品があり、親しみやすい雰囲気を楽しみに閑上に出かけるのも良いものだ。

震災後の閑上

あの閑上の町は、なくなってしまった。

相馬屋の方々は、どうしているか分からない。菅野蒲鉾のご夫妻は、残念ながら他界してしまわれた。だが、ふくらく通信を通して、息子さんが助かったこと、店を継ぐに継げない苦悩に負けず、朝市で精一杯に作業していたことを教えてくれた人がいた。

「閑上朝市」は、3月末から場所を変えて、早々に復活している。(毎週日曜開催)

あまりに深い悲しみに立ち止まれば気がめいる。動くことで生きていける。そんな心の結集だったろう。今は朝市が、閑上の人々の生業だ。そこから、日々の輝きと笑顔をつむぎ出している。

閑上朝市

年末開催
12/29(木)～12/31(土)
新年開催
1/8(日)は初市
イオンモール名取エアリ駐車場西側にて。

ご感想・ご感想は、〒980-8529 仙台市青葉区一番町1-16-5 河北仙販内「ふくらく通信」まで
または、ブログの「ふくらく通信」へ(「ふくらく通信」で検索すると出ます)